

私の楽しみ「旅泉山 酒楽寺」 残りはその世で

小高俊明

旅 振り返ってみると日本全国を長年に亘って随分歩き回ったものだ。

「日本百名山」「日本百名木」「日本百名水」「日本百名湯」「全国三十三観音霊場」「四国八十八霊場」等の名前につられて北から南まで何度巡り廻ったことか・・・。

国土の70%が緑の山林に覆われ、亜寒帯から亜熱帯迄南北に分布する豊かな自然。周囲は海の島国でありながら標高2～3千メートルを超す山岳と里山風景。四季折々の景観と長い歴史に育まれて心の豊かさを与えてくれる日本列島と島々。

これらを思うままに旅できることの幸せには、親から貰った丈夫な体と共にいつも感謝。

又日本国内にとどまらず、現役最後の欧州への転勤時はユネスコ世界遺産のハシリで、すっかりハマってしまった。現役引退後も世界遺産中心の海外旅行に専念し、欧、米、アジア、中東、アフリカ、オセアニアの世界遺産443か所、134ヶ国を訪れてきた。

世界の政治、歴史、文化そして壮大な自然の現場に立ち会うことによって、國、民族、宗教、文化の違いがこれほどまでに・・・と痛感したり、納得させられたりしたものだ。

日本にいては到底理解できえなかったことを目のあたりにできたし、現地から見た日本も今までと違った視角から見る事ができた。許されれば続けたいものだが・・・。

旅は国内、海外を問わず私に知恵と安らぎを与えてくれる最大の楽しみだ。

泉 今や真の秘湯なるものは無くなったともいわれているが、山里の100%かけ流しの温泉に疲れた体を浸し、山の幸と地元の人情に包まれた食事は私の大きな楽しみの一つ。

「名水・名木のあるところ、名酒・名菜あり」が私の信念だ。

山 戦前の神戸では市民が家族連れで近くの山へハイキングに行き、交歓するというハイカラな習慣があった。以来歩くのが大好きで高校時代から最近まで、休日と言うと(でなくとも)山歩きを続けてきた。日本で登った山は450座余(延べ550座)を数える。炎天下の南北アルプス縦走、青氷の斜面が続く冬富士登山、陽光の下で春山スキーなど厳しい自然と優しい自然、加えて単独行の楽しさ・辛さも忘れられない。山の仲間も懐かしい。

酒 「男は酒が飲めなくては」と父からの言葉。酒での多くの楽しい思い出と苦い失敗。お世話になった先輩や仲間は数知れず。父の言葉を守れたのは酒を飲むことだけだった？

楽 高校時代に先生宅に入り浸り、クラシック音楽に入門。学校をさぼって当時の銀座の山葉ホールでの「SP盤レコードコンサート」を何度も聴きに行ったことも思い出だ。アルプスを望む山小屋のベンチで夕陽を背に女性が一人でフルート一心に吹いていた情景は、私の好みにピッタリだった。

寺 厄年がキッカケで、ささやかな仏心と共に日本中のお寺を回り始めて、今も続けているところだが、これまでの巡訪数は約8,500ヶ寺余。だが、日本中のお寺を数えると大小8万余有るそうで、今後の楽しみは無限に近く益々励みが出てくる。

山門を過ぎた境内の閑さ、靈気を感じるたたずまいのお寺が好きだ。

「えっ！このお寺が？」という思いがけないお寺の発見はとてもうれしい。しかし全国各地のお寺を訪れるにつけ、今後のお寺の行く末に不安と心配が……。お経を呪文として唱えるだけでなく、衆生に寄り添い四苦を解き放つ手だては無いものだろうか？

当年84歳半、まだ楽しむべきことが多いのに余生は短か過ぎることが分かった。だから残りはあの世へ行ってからにしようとして最近決めたので来世も大いに楽しみになった。

「生涯現役」にとどまらず「**生涯後も現役**」でありたいと思う今日このごろ。 以上